

財政白書

平成 2 3 年度版

平成 23 年 10 月

成 田 市

はじめに

我が国の経済は、平成 21 年前半をピークとする世界同時不況の中、中国をはじめとする新興国の需要拡大と自動車や家電購入支援などの内需刺激策の効果によって、ようやく景気が底を打ち、緩やかな回復基調を示したものの、円高や支援策縮小の反動、落ち込んだままの雇用情勢などから、内需は依然として低迷を続けており、経済の先行きは世界景気の持ち直しを待ちつつ、本年後半におけるプラス成長を期待するという状況であります。

一方、地方財政は、依存財源が削減される傾向にあるうえに、景気の後退による地方税収入が大幅に減少する中で、社会保障関係経費や公債費をはじめとする義務的経費が増加する傾向にあり、日本経済と同様に極めて厳しい状況にあります。

本市の財政状況は、地方財政が厳しい状況下にあっても、現在のところ健全化判断比率等の財政指標が示すように健全性が保たれておりますが、都市基盤の整備、空港関連事業の推進、生活環境施設整備、少子高齢化対策など、市の発展に欠かすことのできない諸事業が続いているため、今後も多額の財政負担が予想されることから、将来にわたってまで楽観できる状況ではありません。

こうした状況の中、「総合 5 か年計画 2011」の初年度たる平成 23 年度は、「住んで良し、働いて良し、訪れて良し」の生涯を完結できる空の港町づくりを目標に掲げ、市民サービスの充実を第一に、より一層の経費節減とこれまで積み立ててきた各種基金の活用により、効率的・効果的な予算編成に努めました。

この「財政白書」では、平成 23 年度予算や平成 22 年度決算（見込み）を中心に、各種財政指標による分析や類似団体等との比較を行うなど、市財政の状況をできるだけわかりやすく解説し、財政情報を身近なものとしていただけるようにとりまとめました。

市民の皆様には、本市の財政について一層のご理解と、ご協力をいただけますようお願いいたします。

成田市長 小 泉 一 成

第 1 章 成田市の概況
第 1 節 成田市の概況

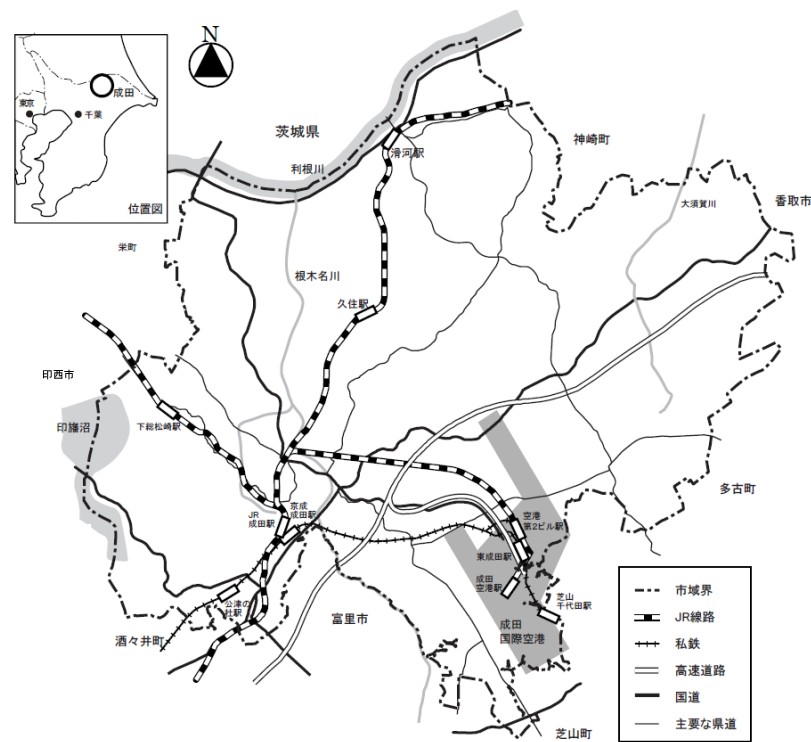
1) 土地

・位置及び面積

本市は、千葉県北部中央の北総台地に位置し、北は神崎町、利根川を隔てて茨城県、西は栄町、印旛沼を隔てて印西市、南は酒々井町、富里市、芝山町、東は多古町、香取市に接しています。

市域面積は、213.84k m²で県土の約 4.1%を占め、東西 20.1 km、南北 19.9 kmに及んでいます。

第 1 図 成田市の位置



・土地利用

第 1 表 土地利用

(各年 1 月 1 日現在、単位: 千 m²)

地 目	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年
宅地	23, 875	24, 101	24, 277	25, 033	25, 109 (11. 7 %)
田	44, 100	44, 072	44, 049	43, 961	43, 941 (20. 6 %)
畑	35, 176	35, 018	34, 929	34, 698	34, 688 (16. 2 %)
山林	41, 250	41, 298	41, 317	41, 262	41, 260 (19. 3 %)
原野	5, 567	5, 520	5, 502	5, 436	5, 433 (2. 5 %)
池沼	596	596	595	591	596 (0. 3 %)
牧場	394	449	449	459	459 (0. 2 %)
雑種地	49, 695	49, 980	50, 009	44, 391	44, 374 (20. 8 %)
その他	13, 187	12, 806	12, 713	18, 009	17, 980 (8. 4 %)
総数	213, 840	213, 840	213, 840	213, 840	213, 840 (100. 0 %)

※ () 内は構成比。

2) 沿革

市内猿山から発掘されたナウマン象の頭骨化石は、約 15 万年前の旧石器時代のものと推定され、学術的に貴重な発見となり、また、三里塚遺跡から発見された先土器時代の楕円形石器は約 3 万年以前に使われた石器で、成田の黎明期を飾る貴重な遺物として注目されています。

後続する縄文・弥生時代にも厳しい自然を克服した原始・古代の成田人の足跡を貝塚や遺跡の中に見出すことができ、根本名川周辺台地、北印旛沼東岸台地及び大須賀川周辺台地に群在する多くの古墳は、成田が古代印波国や下海上国の中心地であったことを物語っています。

律令体制時代の成田は、埴生郡、印旛郡、香取郡に属し、山方、荒海、真敷などに駅（うまや）が設けられるなど、古代交通の要地でもありました。

平安中期、常総の地を揺るがした平将門の乱を鎮めるため、寛朝大僧正によって成田山新勝寺が開山され、成田は法灯絶ゆることのない霊地となりました。鎌倉時代には、この辺りを治めていた大須賀氏に招かれた僧侶真源によって慈恩寺（現在の大慈恩寺）が再興されました。また、室町時代に再建された滑河観音にある仁王門は、国の重要文化財となっています。

中世の成田は、下総千葉氏及び系累の支配下に入り、徳川政権下では佐倉藩、高岡藩、田安家、幕府領、旗本領などが入り組んだ中にありました。

明治 4 年の廃藩置県後、数度にわたる所管の郡の変遷がありましたが、昭和になってから印旛郡、香取郡の所管に入り、昭和 29 年 3 月 31 日、町村合併促進法によって成田町、公津村、八生村、中郷村、久住村、豊住村、遠山村の 1 町 6 か村が合併して成田市が誕生、さらに平成 18 年 3 月 27 日には下総町、大栄町と合併しました。

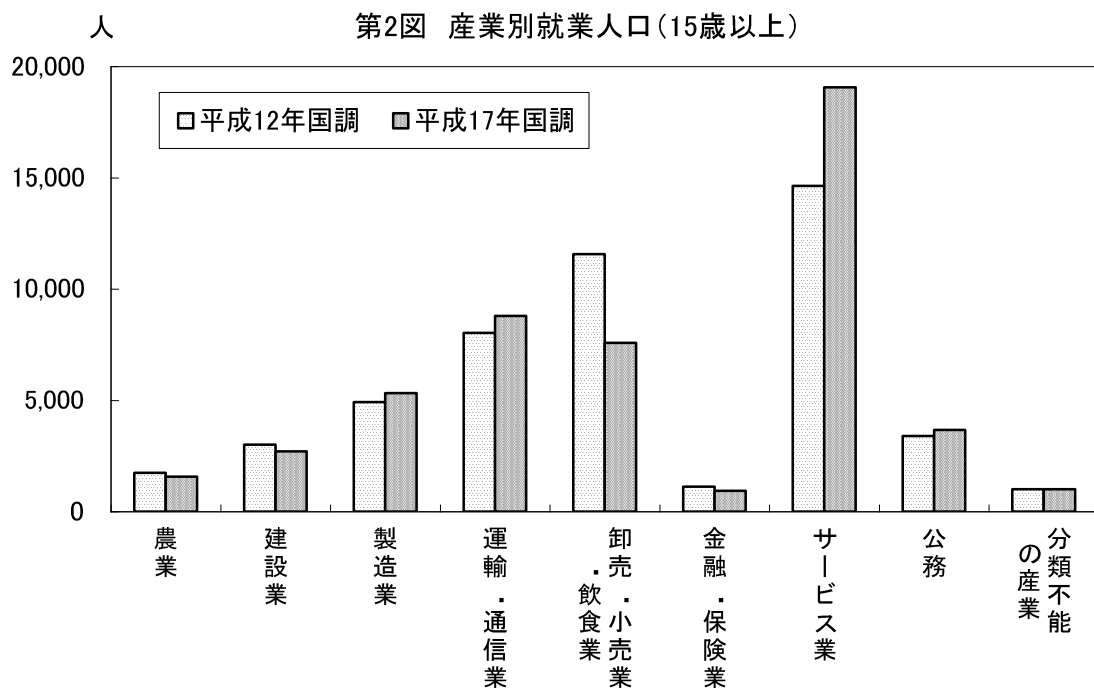
日本の空の表玄関、成田国際空港は、昭和 41 年 7 月 4 日の設置決定から幾多の紆余曲折を経て、昭和 53 年 5 月 20 日に開港し、更に、平成 14 年には暫定平行滑走路が供用開始し、現在では日本を含む 36 カ国 3 地域 72 社の航空機が乗り入れ、平成 22 年度は発着回数 191,426 回（1 日平均 524 回）、航空旅客数は年間 3,251 万人となっています。市制施行当時 45,075 人だった人口も今や 126,235 人（平成 23 年 3 月 31 日現在）となり、かつての田園観光都市から、信仰のまちとしての顔と、交通、経済、文化の様々な分野で国際交流の拠点として、国際交流都市の顔をもつまちへと大きく変貌しています。

3) 人口

・産業別人口

第2表 産業別人口（15歳以上）

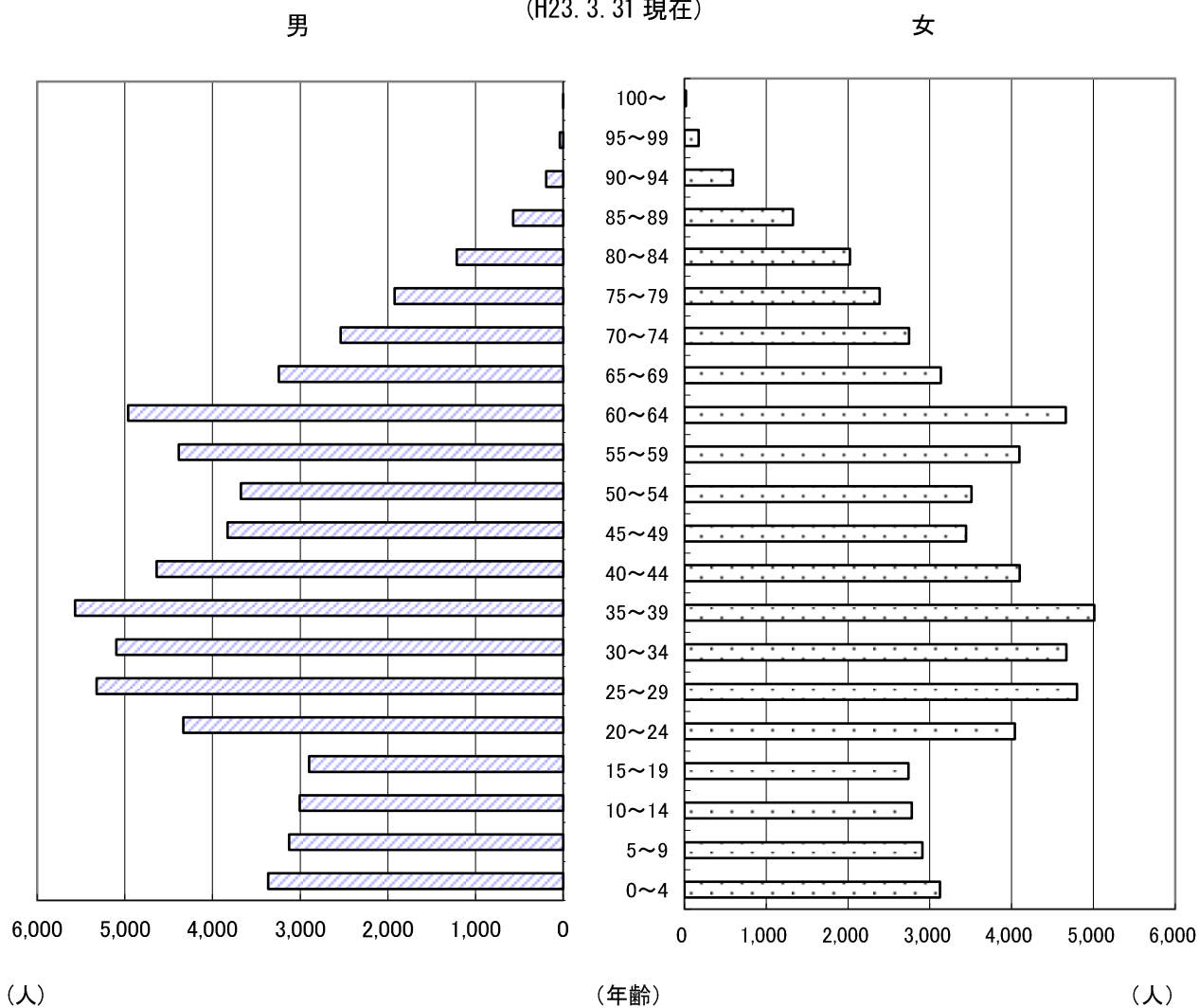
		平成12年国勢調査		平成17年国勢調査	
		総数(人)	構成比(%)	総数(人)	構成比(%)
第1次	農業	1,734	3.46	1,571	3.04
	林業	2	0.00	3	0.01
	漁業	10	0.02	11	0.02
	計	1,746	3.48	1,585	3.07
第2次	鉱業	21	0.04	8	0.02
	建設業	3,013	6.00	2,709	5.25
	製造業	4,921	9.81	5,320	10.31
	計	7,955	15.85	8,037	15.58
第3次	電気・ガス・熱供給・水道業	272	0.54	225	0.44
	運輸・通信業	8,029	15.99	8,797	17.06
	卸売・小売業・飲食業	11,567	23.04	7,578	14.69
	金融・保険業	1,128	2.25	942	1.83
	不動産業	463	0.92	671	1.30
	サービス業	14,639	29.17	19,064	36.96
	公務	3,394	6.76	3,668	7.11
	計	39,492	78.67	40,945	79.39
分類不能の産業		1,005	2.00	1,009	1.96
総数		50,198	100.00	51,576	100.00



・男女別人口

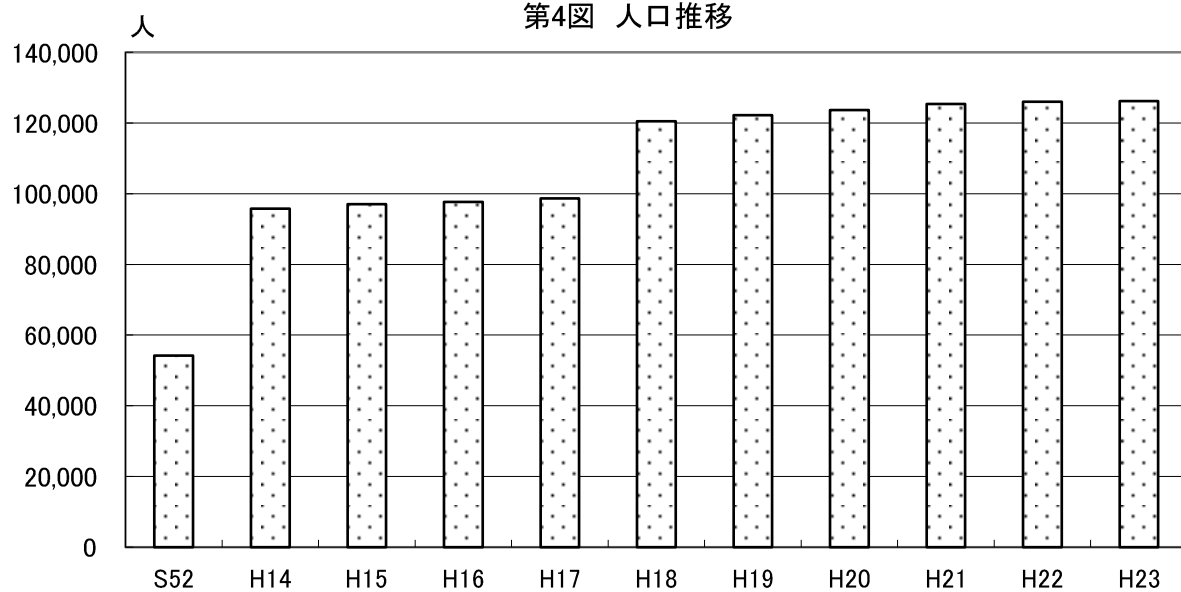
第3図 男女別人口

(H23. 3. 31 現在)



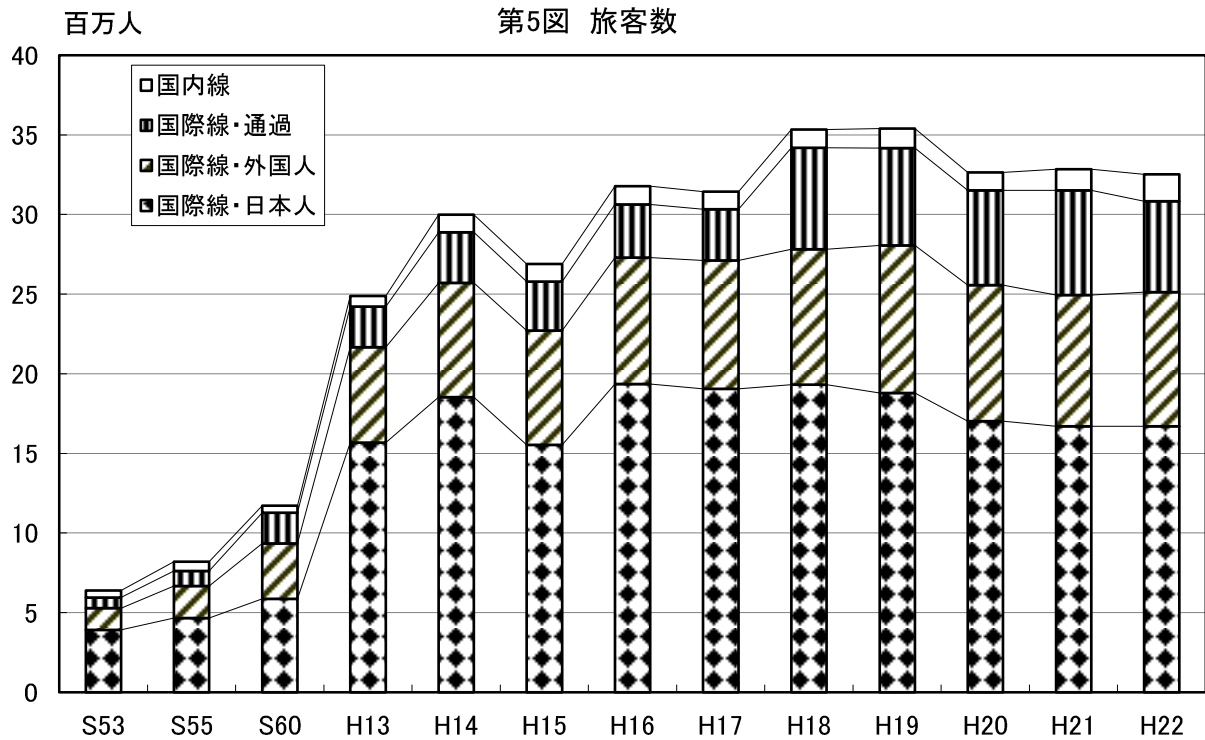
・人口推移

第4図 人口推移

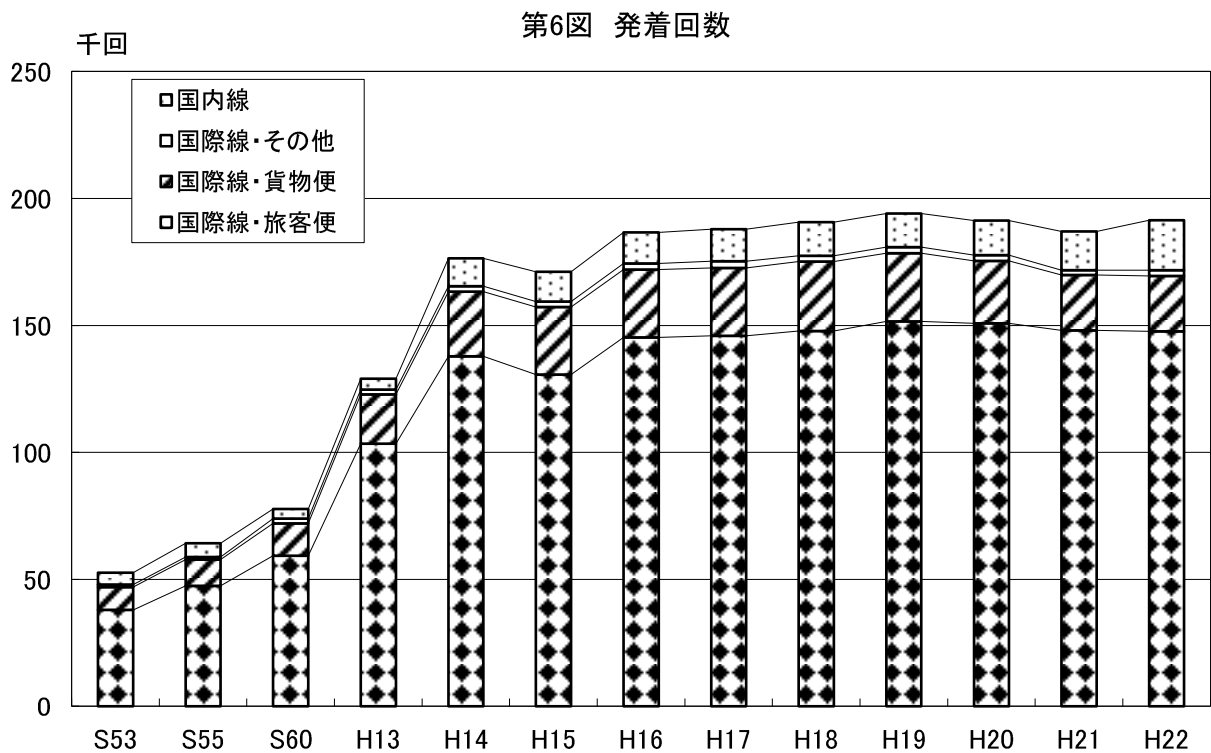


4) 成田国際空港の利用状況

・旅客数

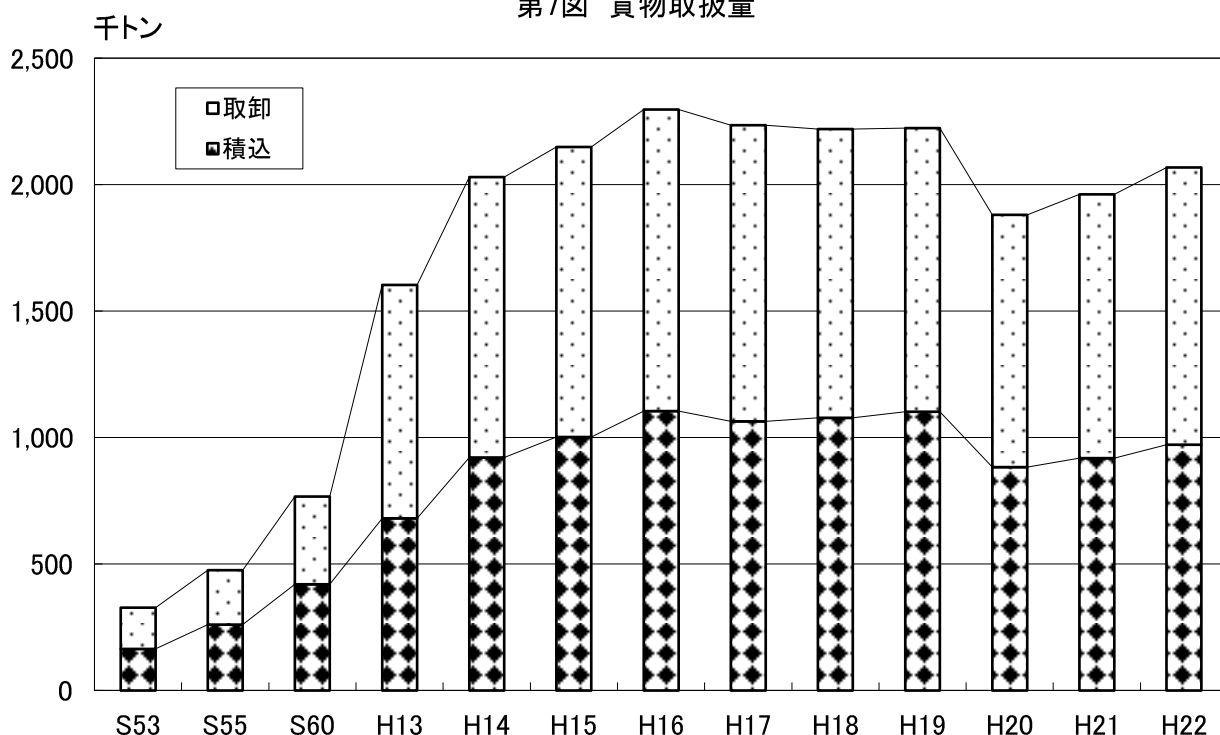


・発着回数



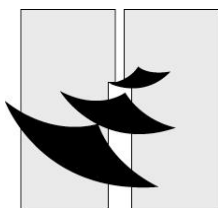
・貨物取扱量

第7図 貨物取扱量



市章

成田の頭文字「N」を人の姿に重ね合わせたイメージをデザインし、四肢の伸びは躍動感と疾走感、中央の赤は成田市民の熱い情熱、また、「NARITA」は日本と世界との交流拠点としての国際空港都市を表し、成田市の明るい未来への飛躍と更なる繁栄への願いが込められています。(平成18年4月29日制定)



シンボルマーク

市制40周年を記念してシンボルマークを制定しました。

歴史的な門前町の門の字と成田の頭文字nを背景にして、本市の基本理念“自然、健康、愛情”あふれる未来の姿と成田空港へさまざまな国から飛来するイメージを三つの翼で表し、門前町の“静”と空港都市の“動”を象徴化したものです。

(平成6年4月1日制定)



市の木 梅

千葉国体の記念事業の一環として成田市の木に“梅”が選定されました。また、昭和48年より結婚を記念して市民課窓口で苗木をプレゼントしています。(昭和46年4月指定)



市の花 あじさい

市制40周年を記念して、誰もが親しみやすく栽培しやすい成田市のシンボルとなる花に“あじさい”が選定されました。(平成6年4月1日指定)